

スーパー戦隊作品に見られるジェンダー意識

本稿は、2022 年 12 月までの「スーパー戦隊」46 作品とテレビ朝日系列放送の『ザ・ハイスクールヒーローズ』の計 47 作品を対象として、キャラクターの担当カラーや名乗り順、作品におけるジェンダーの表現、令和の作品のストーリー展開に見られる多様性の描き方などに着目しながら分析し、「スーパー戦隊」作品におけるジェンダー意識やその変遷を考察したものである。対象の作品のなかでも特に令和の作品に焦点を当てて分析を試みた。

分析の結果、昭和から平成前期では「男の子の色」「女の子の色」というような考えがしぶとく残っており、ジェンダーの固定観念を引き摺っていたが、平成後期から令和にかけて認識を改めアップデートしていくことで、ジェンダー・イメージからの脱却に挑戦し続けていることが明らかになった。また、近年の作品傾向として、ストーリーの一部に多様性に関する展開が組み込まれるようになった。「スーパー戦隊シリーズ」は、社会の状況や変化に素早く反応しストーリーに組み込むことで、時代を跨いでより一層幅広い層の人々に受け入れられるようになっていった作品だといえる。今後の作品でも、ステレオタイプを払拭しジェンダーバイアスに囚われない、自由で多様性に富んだキャラクターが生まれてくるであろうことは注目すべき点である。